

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

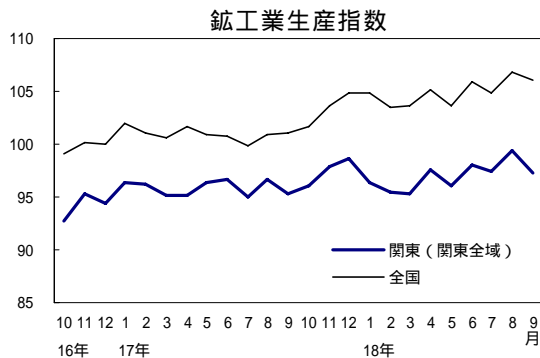
#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 18 年 8 月)	今回 (平成 18 年 11 月)	
住宅建設	大幅に増加	おおむね横ばい	

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、印刷機械は好調であったものの、フラットパネル・ディスプレイ製造装置が伸び悩んだため、おおむね横ばいで推移している。化学は、フェノール・酸化プロピレンなどの樹脂原料が好調であったため、増加している。輸送機械は、乗用車ボディの製造が減少したものの、鋼船や軽自動車等は引き続き好調であったため、おおむね横ばいで推移している。情報通信機械は、固定通信装置等は増加したものの、PHS、携帯電話等が伸び悩んだため、おおむね横ばいで推移している。電気機械は、生産拠点を海外に移動している半導体IC測定器が減少しているが、自動車向けのモーターに使用するアルカリ蓄電池が好調であったため、おおむね横ばいとなった。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成18年9月の関東は速報値。

##### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

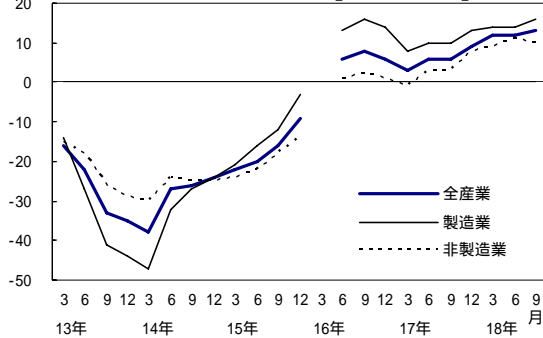
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	13.8	6.1	0.5	4.3	2.1
化学	13.7	2.3	4.1	2.7	3.1
輸送機械	11.3	2.0	1.0	1.5	8.1
情報通信機械	8.6	10.0	0.1	4.8	9.2
電気機械	7.9	0.3	0.1	0.8	10.6
鉱工業	100.0	1.7	0.7	0.8	1.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7~9月期は速報値。  
3. 7~9月期の化学の生産、出荷は、7月、8月確報値の平均より算出。在庫は、8月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

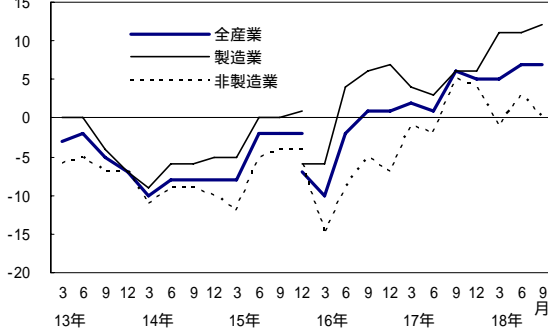
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。  
関東全域(新潟県を含む)

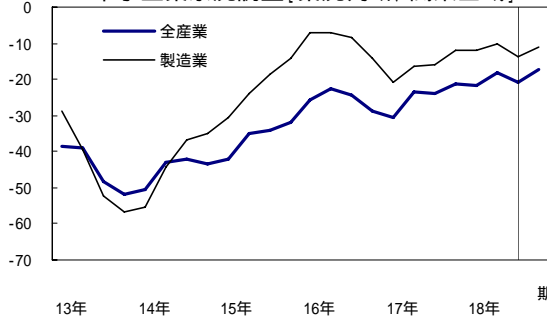
(%ポイント)企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。  
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「荷動きはある程度良くなっているが、前年比を多少下回っている。暖冬の子測もあり、冬物商品等の動きが期待ほど上がっていない状況である(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

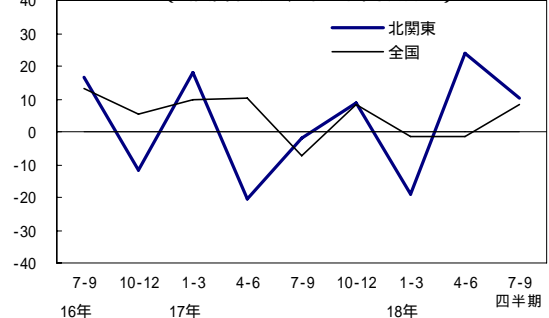
企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	26.9	6.7( 1.2)
製造業	12.4	23.4( 1.0)
非製造業	99.0	31.8( 4.3)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。

(%) 建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

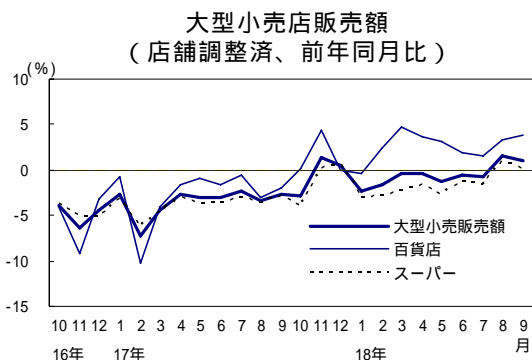
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、中下旬の大雨等の影響により多くの店舗で来店客数に減少がみられたものの、移転改装効果の持続やクリアランスセール効果により、衣料品や身の回り品が好調であったことから、前年を上回った。8月は、下旬に気温が高めに推移し、秋物商材が不振であったことから衣料品が伸び悩んだものの、天候不順の影響で生鮮野菜の販売価格が上昇し、飲食料品が伸びたことから、前年を上回った。9月は、中旬に低気温で推移したことから、コート類を中心とした衣料品が好調であったため、8か月連続で前年を上回った。

スーパーは、天候不順による生鮮野菜の高騰から、主力の飲食料品に伸びがみられたものの、衣料品や身の回り品が伸び悩んだことから、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

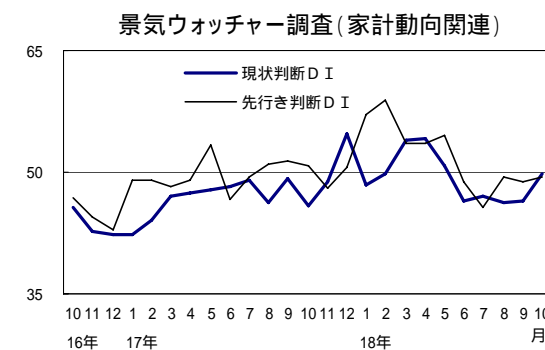
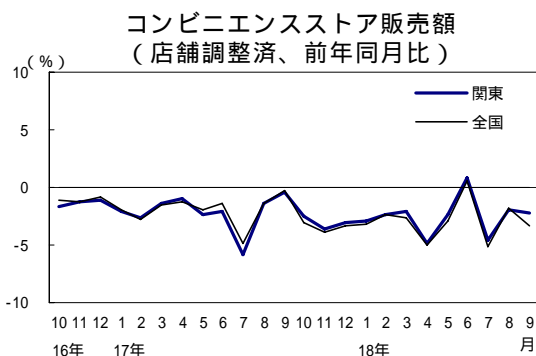
「前年に比べ気温が高めに推移しているため、衣料品の売上が前年比で93%と悪い。その落ち込み分を食品でカバーしているため、店全体の売上は前年並みである(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	0.3	1.4	0.7	0.6
百貨店	1.3	2.2	2.9	2.7
スーパー	1.0	2.8	1.9	0.1
コンビニ	3.0	2.4	2.2	3.0
景気ウォッチャー	49.8	50.7	50.4	46.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。18年7-9月期は速報値。コンビニは関東全域。

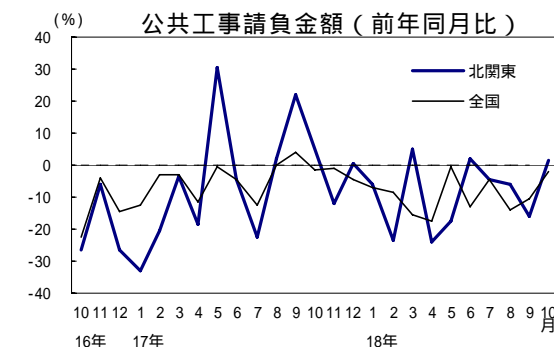
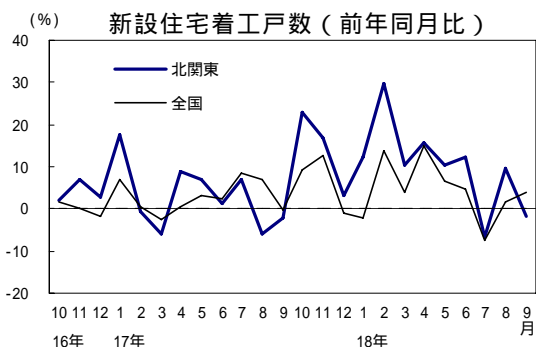
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

持家は前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

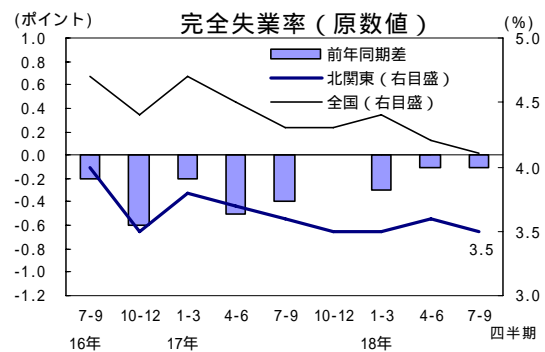
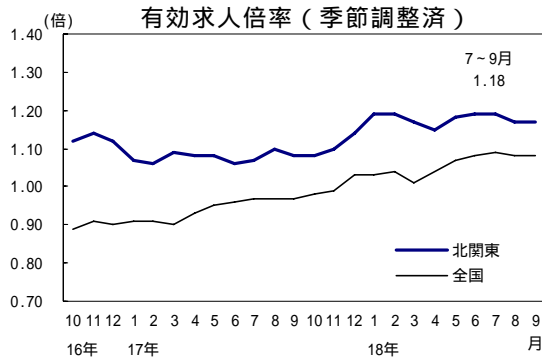


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

「けん引する製造業の求人は増加しているものの、採用が難しい技術開発職、専門職が多く、採用基準に満たない場合は、無理をしてまで採用するといった考え方はない (民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

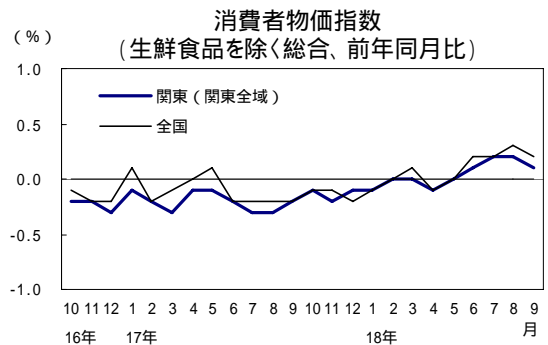
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

10月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月	18年10月
倒産件数	158	184	153	157	71
(前年比)	1.3	11.5	7.8	4.7	20.3
負債総額	1,000	946	944	819	787
(前年比)	3.4	6.1	6.9	7.7	120.3



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・客単価はなかなか上がらないが、平日のゴルフコンペなどは多くなってきている。また、市場の会員権の動きも活発になってきている (ゴルフ場)

<先行き>

・ウォームビズも2年目になり、メンズ業界では今年は特におしゃれ、ドレッシーに装うということをして提案を行っている。男性客も非常に増加しており、必ず好結果につながるの見込んでいる (百貨店)

景気ウォッチャー調査 (合計)

